

バスロケーションシステム及び乗降数カウントシステムの導入について

1. 概要

現在、さつきバスの走行位置の確認については、可児営業所を通じて確認する状況となっており、手間と時間を要している。

また、さつきバスの毎日の乗客数及びバス停ごとの利用状況を調べる乗降調査については、運転手が利用ごとに紙媒体に記録している。それを基に都市計画課でデータ入力・集計作業を行っている。道路上での作業のため、安全性の問題があること、また、乗降数のカウントも一度紙で記録し、それをデータ入力するため手間もかかっている。

そこで、バスの走行位置を所有する端末等で確認できるバスロケーションシステム及び自動で利用者数やバス停ごとの乗降数を確認できる乗降数カウントシステムを合わせて導入したい。

【 ①バスロケーションシステム 】

バス車両に設置した GPS 機器などを利用して位置情報を把握し、バス利用者にスマホ等でバスの位置情報や接近情報、遅延情報などを提供するシステム。

【 ②乗降数カウントシステム 】

車両にカメラを搭載し、バスの乗客数やバス停ごとの乗降記録を自動で確認できるシステム。バス停ごとの利用状況の他、時刻表と実際の通過時間のタイムラグを把握できるため、利便性の高いダイヤ改正につなげられる。

2. 令和5年度中間評価を踏まえて

バスロケーションシステムについては、令和5年度に実施したバス利用者アンケートでは、「利用しない」は8%の一方、「利用したい」は35.5%であったことから、導入することで一定の効果があると考えられる。また、「便利だと思うが、使うかどうか分からない」は23.1%あるため、使い方の説明をはじめ丁寧に周知することが求められる。

3. メリット

(利用者)

- ・スマホ等でバスの走行位置や直近の時刻表を確認することができる。

(運行事業者・市)

- ・利用者自身でバスの走行位置を確認できるため、問い合わせが減り、問い合わせがあった場合も即時に回答できる。
- ・運行情報の収集ができる（ダイヤ改正等の参考になる）。

4. 導入システム

導入するシステムについては、運行事業者の東濃鉄道㈱が既に恵那市で導入している「ジーネックス社」のものを導入することで、円滑な運行管理を行うことができる。また、バス運行情報業界に精通する公共交通促進利用ネットワークの伊藤氏に相談したところ、同社のシステムを推奨しているため、可児市においても同社のシステムを導入したい。

5. 今後のスケジュール

R6. 7 月	東濃鉄道とシステム事業者が契約
R6. 9 月	納品
R6. 9～10 月	試運用
R6. 11 月～	運用開始、広報紙掲載、地域での講座等での PR